



協会けんぽの平成30年度決算のお知らせ

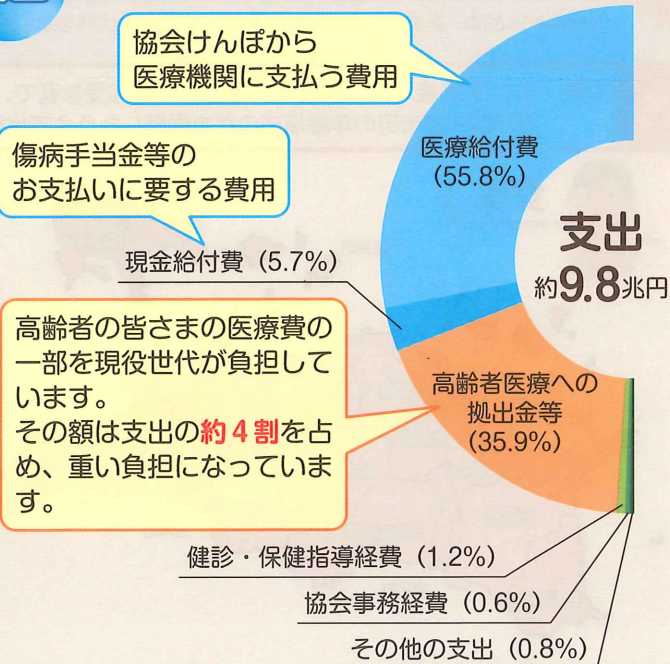
収支はプラスであるものの、協会けんぽの財政は引き続き楽観できない状況です。

平素より協会けんぽの取組にご理解いただき、誠にありがとうございます。

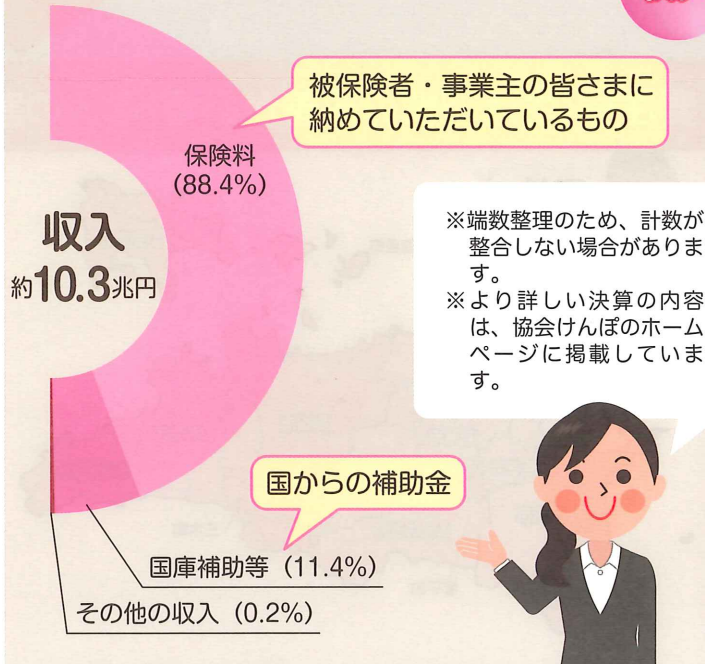
このたび、平成30年度の決算（医療分）がまとまりましたのでお知らせいたします。

協会けんぽの平成30年度決算（医療分）

支出



収入



Q. 平成30年度決算は前年度と比較してどのような内容ですか？

平成30年度決算 [医療分]

収入	10兆3,461億円 (+3,977億円)
支出	9兆7,513億円 (+2,515億円)
収支差	5,948億円 (+1,462億円)
準備金	2兆8,521億円 (+5,948億円)

() 内は対前年度増減



●収入増加の要因

- ・保険料を負担する従業員の数が2.7%増加
- ・従業員の賃金が1.2%増加

●支出の増加が抑えられた要因

- ・診療報酬のマイナス改定（▲1.19%）によって、支出の6割を占める医療給付費と現金給付費の伸びが抑制された
- ・支出の4割を占める高齢者医療への拠出金等が横ばいとなった

Q. 収支がプラスということは、協会けんぽの財政は良いのでしょうか？

30年度は収支プラスを確保しましたが、以下の理由により協会けんぽの財政は引き続き楽観できない状況です。30年度は支出（保険給付費や拠出金等）について診療報酬のマイナス改定や制度改正の影響（退職者医療制度の廃止）等により一時的に増加が抑制された面があります。今後は、近年保険料収入を増加させていた被保険者の人数の伸びが急激に鈍化していることなどに加え、団塊の世代が後期高齢者になることに伴い、拠出金が更に増加していくものと見込まれます。

